

黙することはたんなる沈黙ではない  
秘密の哀しみなど存在しない  
語られることのない哀しみは  
もっと絶えがたい重荷となる

フランシス・ドレイ・ハヴァガル

悲しみに

表現される自由を与えて

悲しみに

理解される権利をわたそう

ケイ・ギルバート



5月23日に行われた34回目のわかちあい。  
今年も同じ日に、お隣の小学校は運動会でしたが、  
お昼近くに、鉛色の低い雲から雨が降り始め、校庭には子どもたちの取り残された  
椅子が、淋しそうに雨に打たれていました。  
この日は15名方がご参加になり、初めて参加の方は7名でした。

- ★ 心の中にとどまっていた何かが、流れ落ちた気がします。  
前回初めて参加した後、この2カ月で明らかに自分が変わったことを実感しています。  
ありがとうございます。
- ★ 一月の末に最愛の息子を亡くしてしまい、途方にくれています。  
何故？ どうして打ち明けてくれなかったの？ どうして気づいてやれなかったの  
かと、悔やむ気持ち、自分を責める気持ち、周りの人々を恨む気持ち、そして息子へ  
の残念無念の想い・・・  
収集のつかない気持ちのまま、何か答えがみつからないかと、すがるような思いで参  
加してみました。  
一人で迷っているよりの、少し道が開け、前が見えてくるような気がしました。  
でも、まだ実感のない毎日ですが・・・
- ★ 心の整理はまだつかないが、受け入れる助走を始めようか、という気持ちになった。  
息子の死を無駄にしてはいけない…という強い思いを持った…というか 持ちたい。  
まだまだ日が浅く、つらいから・・・
- ★ 今の運営をされている方々の温かさ、ホスピタリティーはとても素晴らしかったと思  
います。  
自分の考えを整理することが出来、有意義な時間になったと思います。
- ★ 初めて参加してみて、「逆に苦しくなるのでは」という先入観から「前向きに進んで  
行こう」と再確認できた。
- ★ もうすぐ息子の三回忌。  
私自身、仕事で色々の激動の時期で、もっと年月が経ったような気がしています。  
そんな大変な中、リメンバーに参加する時間で休息させて頂いています。  
本当にありがとうございました。

- ★ 参加する当日は、急に不安になりましたが、来て話してみると、スタッフの方も優しく、同じ境遇を乗り越えた人たちと出会うことが出来て良かったです。  
人生の先輩にあたる年齢の方の話も聞け、私も将来は少し前向きに気持ちが変わっていかもと、希望がもてました。
  
- ★ 今日初めての参加で、他の方の辛さも、自分の辛さもとてきつく、生活一日いちにちが大変なのがよくわかりました。  
同じように愛する人を亡くした方からお話を聞けることはなかなかないので、とても良かったです
  
- ★ 前回のリメンバーに参加した帰り、そのまま家に帰る気になれず、天神で降りました。  
地下街をしばらく歩き続け、時計を見ると4時近く。  
「疲れた～」いつものレストランで食事と思って、探し続けましたが見つからず、若い方が階段を下りてこられたので「この上にお店ありますか？」と問うと、無いとのこと。そして歩きだしたら後ろからその方が、「あの… 大丈夫ですか？」  
私は軽く手を上げて歩き出しました。  
その時急に、私は今、子どもに詫言状を書いている。  
悲しさと、やり切れなさと、こうしなければあの子に申し訳なくて会えない。  
そんな思いで泣きながら歩きました。  
18年の長きをこらえて、もう今は、涙をこらえず生きて行ける場所を見つけられた。  
涙とともに少しの安らぎを感じました。
  
- ★ 「年間3万人以上の方が自殺されています」とニュースで流れるだけでいいんでしょうか。会社のパワーハラスメントや家族間の不和、いろいろあるんでしょう。でも政治家は何もしない。本当にいいんでしょうか。  
会社の中のパワーハラスメントを、どう証明すればいいんでしょうか。いつも考えています。そんな思いをぶちまけてもいいんじゃないでしょうか。  
そんな同じ様に亡くされた方、社会から殺されたんだと思いませんか。



## 「ほたる」



父が亡くなった翌年の夏を僕は故郷ですごしていた。  
ある夜のこと、僕は心配顔で見送る母を背にして、夜中に酒を抱え、大川のほうへと歩いた。  
川原の岩に腰掛け、飲み慣れない酒を口の中へ流し込み意識がもうろうとするほど、あおった。  
払えるはずもない大きな「借金」と、突然、崖から突き落とされたような「絶望」を残して自死した父への“恨み”。そして一方では優しかった父への“愛しさ”が頭の中で交錯し、混乱していた。  
更に、漠とした自分も死ぬのではないかという恐怖と、漆黒の闇につつまれた自分の将来に希望をなくしていた。

川原で酔い、誰もいないことを確認して一人声を上げて泣き、疲れて少し眠ったようだった。  
目が醒め、焦点の合わないまぼんやりしていると、目の端のほうに、かすかな光が灯ったり消えたりしている。  
目を凝らすと、無数の光が、あたり一面に消えてはひかり、光っては消えている。  
酔って目が回っているのかと思ったが、「ほたる」だった。  
しばらくすると、数個の小さな光が夜空へ舞い上がったかと思うと、ほかの光達も誘われるように、いっせいに空へとのもり、広大な蒼に広がる満天の星と、その“小さな命達”の境はなくなり、僕には星も蛍も見分けがつかなくなった。  
あまりの美しさに口をあけて見上げていると、僕は、そのまま川へ吸い込まれるように落ちた。

夜中に民家の庭に迷い込んだ河童のように、ずぶぬれになって帰宅した僕を見て、母が目を剥いて怒った。

「あんたまで死んだら、おかあちゃんも、もう生きておれん」

父の死後、急にふけてしまった母は僕の足元に両手をつき土下座をするように倒れこみ、おいおいと泣き続けた。

川へ落ちたのは、あやまって足を滑らせてしまっただけで、まったく母は勘違いしたのだが、今考えると無理もなかった。僕たちの前に立ちはだかる困難の大きさをよく理解していた。

僕に「生きる力」が残っているか、不安だったのだろう。

あれからもう30年以上になるだろうか・・・仕事と金のことだけに集中し、父の死を語ることなく、辛い想いをかき消すように無我夢中で生きて来た僕は、いつの間にか父が亡くなった年齢になろうとしている。

この前、久しぶりに母に電話したら、  
「まさや・・・今日は星がきれいなんよ！ 昼、よ～晴れとったけんあ～」  
と少しボケかかった母が弾んだ声で言う。

「そういえば、あんた・・・小学生の頃、星を見とって川へ落ちた事があるんよ。覚えとる？」 そう言って屈託なく笑った。

「かあさん・・・それは小学生の時じゃないんだよ」そう言いかけたが、その言葉を飲み込んだ。

母の中で思い出は、あの時の星と“ほたる”のように、辛い人生の思い出と楽しい思い出との境がなくなり、生かされている喜びといくつかの悲しみが混在する美しい一枚の風景画となっているのだろうか。

「かあさん・・・僕、覚えとるよ。それでいいよ・・・ありがとう」

今夜、母はひとり、満天の星を見上げ、何を思っているのだろうか。  
目を閉じると、若く元気だった父と母の笑いあう声が聞こえたような気がした。

岩元 雅也

## お知らせ

2005年8月より発行して来ましたが、予算やマンパワー不足のため、今回の29号を持ちまして、しばらくの間休刊させて頂くことに致しました。リメンバー福岡の開催日は、奇数月第4日曜日となっておりますが、今後はホームページにて日時をご確認の上ご参加ください。集いにご参加された方々からのメッセージや、その他の情報はこれからもホームページに掲載して参りますので、ひきつづきご覧ください。

### リメンバー福岡自死遺族の集い 次回ご案内(第34回)

日時 2010年7月25日(日) 13時から16時まで

★ 13時受付開始・13時15分までにお越しください

会場 あいれふ8F 婦人会館 視聴覚室 福岡市中央区舞鶴2-5-1  
会場は「リメンバー福岡」となっています

参加費 1000円 ★第35回遺族の集いは2010年9月26日(日)です

【お問い合わせ先】 Tel 092-737-8825 福岡市精神保健福祉センター

【メールアドレス】 rememberfukuoka@yahoo.co.jp お問い合わせ・ご意見など

【HPのアドレス】 <http://www.rememberfukuoka.com> 会場・日時・などのご案内

【寄付の窓口】 郵便振替 口座番号 01780-1-108383 口座名称 リメンバー福岡

主催 リメンバー福岡自死遺族の集い

共催 福岡市精神保健福祉センター

編集 Kumiko Inoue

